

建築学部 5 周年記念イベント「震災 5 年復興祈念写真展」 東日本大震災の復興とともに歩んだ 5 年

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に東日本大震災が発生し、東北地方は未曾有の被害に襲われました。一方、首都圏は震度 5 弱程度であったにもかかわらず、大量の帰宅困難者と深刻な交通渋滞が発生するなど、地震災害に対する大都市の脆弱性を改めて認識することになりました。

震災当日を振り返ってみますと、超高層の工学院大学新宿キャンパスでは長周期地震動の影響で天井の落下や什器等の転倒、エレベーターの停止といった被害が発生し、災害対策本部では被害状況を確認しつつ、学生・教職員の安否確認や外部への情報発信など様々な災害対応に追われていました。並行して、教職員と学生が協力し、新宿駅周辺で行き場のない 700 名近い帰宅困難者の支援活動を行っていました。

これまでにない経験をしたわずか 20 日後には日本初となる建築学部が誕生し、被災地の混乱も落ち着かない状況の中、教員と学生はそれぞれの専門性と特色をいかした被災地の復興支援に取り組んできました。

あれから 5 年が経過しましたが、被災地の復興はまだ続いています。今回の写真展は、建築学部が東日本大震災の復興とともに歩んできた 5 年を振り返り、被災地のこれからの復興、建築学部のこれからの 5 年を考える機会とするために企画したものです。

展示期間 2016 年 3 月 7 日（月）～ 3 月 22 日（火）